



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「伝説の教師・橋本武」

産経新聞十月4日付に表題の教師の訃報が載った。以前から『サライ』のインタビューで知っていた人物だっただけに心が痛んだ。一〇一歳であった。

橋本武は京都府生まれ。昭和9年に東京高等師範学校を卒業し、灘中学(旧制)の教師となったのが、二十一歳であった。校長が私立中学の教育に理想を燃やしていた方で、俄然やる気がわいてきた。戦後、GHQによる6・3・3制の学制改革で、灘中も中高一貫教育に変わった。これを契機に、彼は国語の教科書使用をやめた。その代わり、中勘助の自作『銀の匙』という文庫本一冊を、生徒たちと一緒に3年かけて読むことに決めた。灘高は中学と高校の6年間を一教科一教師が持ち上がりで担当する独自の教育スタイルをとっていた。だから担当する生徒にどんな授業をするかは一切まかされていた。生徒に渡したのは文庫本一冊だけで。ノートも用意せず、その代わりに毎回、彼が本を読み解く手助けになるガリ刷りのプリントをつくっておいて配ったのである。

「国語はすべての教科の基本です。いわば学ぶ力の背景です。国語力があるかないかで、ほかの教科の理解力も大きく違ってくる。社会に出て自分を表現するのも国語力。つまり国語力というのは、そのまま生きる力と置き換えてもいい。だから、私の生徒には何を置いても国語が好きになってほしかったのです。生徒が自分から興味をもつには、主人公になりきって読める物語でなければいけない。その上で、中から出てくる言葉から派生することもひっくるめて、その本の物語の主人公の“私”という人物のひとつひとつの見聞や感情を追体験させようと思っただけです。例えば主人公が駄菓子屋に行く。そこに出てくる駄菓子に近いものを私が事前に神戸の街を歩いたりして、みんなに配って食べさせながら授業をしたんです。単に言葉の説明だけでは済まさない。わかったつもりで読み流さない。実際に体験させたのです。教育とはゆとりで遊ばせるのではなく、いろんなことを貪欲に取り入れさせるのがいい。それも詰め込みではなく、子どもの方から意欲的にあれもこれも興味の触手を伸ばす。そういう方向にもっていかなとダメです。やがて灘高は東大合格日本一になってゆく。

主イエスは疑い深いトマスに対して「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」(ヨハネ二〇・29)と説いたが、信仰こそは追体験の世界である。各自が主に出会ってその人生が変えられ、自ら伝道するようになってゆくからだ。聖書こそ人生の基本であり、生きる力である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

